

秀明大学将棋部 創部 10 周年に向けて

～Road to 10th Anniversary～



秀明大学将棋部

令和 2 年 11 月 14 日(土)・15 日(日)

目 次

・ 部長あいさつ-----	2
・ 将棋部が迎える第 2 の草創期-----	3
・ 特集記事① コロナ禍の部活動-----	4
・ 特集記事② エグゼクティブ対談 ～来年度 創部 10 周年を迎える将棋部について語り合う～ 顧問 田島博之先生 × 第 6 代部長 岩淵拓真 -----	8
・ 部員による紹介シリーズ	
① 実は著名人のあの人も！！将棋が強かった・・・-----	16
② プロ棋士紹介コーナー -----	19
③ 詰将棋コーナー -----	26
・ 将棋部 INFORMATION -----	34

部長あいさつ

本日はお忙しい中、当冊子に目を通していただき誠にありがとうございます。本年の新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響で、例年飛翔祭で催してきた「将棋道場」の開催が叶わなくなったことに伴い、本年は秀明大学将棋部が来年度創部 10 周年を迎えるにあたり、

秀明大学将棋部 創部 10 周年に向けて

～Road to 10th Anniversary～

と題し、この度記念冊子を作成しました。将棋部のこれまで、現在、そしてこれから。すべてがこの 1 冊に詰まっており、最後まで楽しめるような内容になっています。

また、当冊子を刊行するにあたっては部員の皆さんや、顧問の田島先生にはここには記しきれないほどのご協力やご支援をいただきました。改めましてこの場をお借りして心より感謝申し上げます。

令和 2 年 11 月 14 日・15 日

将棋部 第 6 代部長

岩淵 拓真

将棋部が迎える第2の^{そうそうき}草創期

皆さんは「**草創期**」という言葉をご存じですか？ 文字通りの意味で考えれば、草が生え始め、形にもなっていない時です。辞書で調べてみると、「**物事の始まりの時期**」と書かれています。つまり、将棋部において言えば、創部当初のことを指します。その時期というのは初めての経験が盛りだくさんであるため、非常に大変な時期だと言えます。思い起こせば、将棋部が創部された当時の学生も大変苦勞していたのを今でも覚えています。

そんな卒業生達の努力もあり将棋部はついに来年度創部10周年を迎えますが、ここから更に先の10年を見据えると、将棋部は「**第2の草創期**」に突入したのではないかと考えます。時代もコロナ禍で、対面で将棋を指すことがままならない中、現在取り入れている、オンラインで将棋を指すことは今まで行ってこなかったことであり、活動様式が変化したという観点から考えれば、将棋部も新たな時代を迎えました。これはある意味で、「**新しい将棋部に生まれ変わった**」とも言えるでしょう。

このことから、第2の草創期の中、新たな時代を切り開こうとしている部員の皆さんには、ここから先“**新しい一歩**”を踏み出す世代として活動に勤しんでもらうと共に、“**将棋を楽しむ**”ということも忘れずに今後も頑張ってもらいたいです。

将棋部 顧問

田島 博之

コロナ禍の部活動

2020年、この1年も間もなく佳境を迎えるところではありますが、今年は異例尽くしの出来事が多くありました。言うまでもない、新型コロナウイルス感染症です。このウイルスによって将棋部は創部以来の活動形態を大きく変更することになりました。まずはこれまでの将棋部はどのような活動を行っていたかを見ていきます。

<これまでの活動>



これまでは、写真のように将棋盤や駒を用いて対局を行っていました。将棋と言えば元来、人と人が将棋盤を挟むようにして向かい合い、序盤、中盤、終盤と互いの顔色をうかがいながら駆け引きを行って試合をするものです。そして考えに考えつくした後、将棋駒を盤面に「パチン」と音を立てながら置くところに醍醐味があるのです。そのため当時の将棋部でも互いが盤面を挟んでにらみ合い、他を寄せ付けない雰囲気漂っており、当時の活動には今にはない「活気」があったように思います。

また、これまでは飛翔祭で毎年一般の方向けに「将棋道場」と題して部員との対局を行っていました。来場者にはお菓子や飲み物がふるまわれ、地域の人々と交流を深めていました。本年はオンラインでの開催となったため開催できませんが、来年はまたこのようにして開催できることを心待ちにしております。

今年1月、将棋部では新年会を実施し、2月には卒業を間近に控えた4年生のために4送会を実施しました。いずれも楽しく、この時ばかりは皆時を忘れて語り合い、2次会では朝までカラオケボックスで将棋を指したものです。

そして時を同じくして、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るうようになり、将棋部の活動は10月まで休止することになりました。それでは、活動が解禁された現在はどうのようにして活動を行っているか見てみましょう。

<現在の活動>

10月より活動が再開され、現在でも週に3回活動を行っていますが、先述の通り、従来と比べ大きく活動内容を変更しました。



まずはこの写真を見てください。これは現在の活動の様子です。写真から分かるように、現在では新型コロナウイルス感染症の予防のため、原則将棋盤や駒は使用しておりません。その代替手段として、携帯ゲームアプリ「将棋ウォーズ」を用いて対局を行っています。アプリを用いることで、遠隔で活動する部員とも対局を行うことが可能になりました。



しかしながら、傍から見れば何をしているのかが分かりません。少なくとも、将棋を指しているようには見えません。その点を懸念した1人の部員の提案から、数日前より教室前に活動していることが分かる紙を掲示することにしました。

←この他にももう1枚同じ内容の紙が掲示されています。是非とものぞいてみてください！！



↑ 遠隔で活動する部員

また、将棋部では遠隔で活動する部員が教室にいる部員と同じ空間で活動する雰囲気を感じてもらうために、Zoomを用いて教室から中継する取り組みを行っています。PCの画面をスクリーンに映すことで、部員の顔を見ることができ、私たちも一体感を味わいながら活動することができます。

※将棋部は学生部長の濱口先生より許可を得た上で、遠隔授業を選択した部員が活動を行っています。



将棋部では部員と対局を行う際、LINEを用いて個人間でやり取りをし、対戦を申し出ます。そして対局が終わった後、写真のように感想戦を行い、互いの良かった手や悪かった手についてスクリーンショットで盤面を見せながら解説していきます。このシステムの良いところは、棋譜を初めから最後まで確認できることです。アプリを使わない対局では、対局の中で肝心なところを正確に覚えていないことがあると思いますが、アプリを用いて対局を行うことでピンポイントに対局の肝となるところについて振り返ることができます。

私達はこのようにして感想戦をリモートという環境の中で効率良く行っています。その他にも、部員同士で詰将棋の問題をLINEで共有し合ったりするなど、棋力の向上に向け、今まで対面で行っていたことを遠隔でも変わらずに行うことができます。

感想戦… 将棋や囲碁で、対局終了後に互いの打ち手や差し手を振り返り、研究・検討すること。(出典 Weblio 国語辞典)

棋譜… 将棋や囲碁の対局での手順を記録したもののこと。(出典 Weblio 国語辞典)

<今後に向けて>

現在将棋部は創部10周年に向け活動しておりますが、今まで経験したことのない試練に直面しています。そしてこの状況を打開するために手探りではありますが、試行錯誤しながら様々な方法を駆使して活動を行っています。将棋は20年以上も前からPCで楽しむことができました。そのためその気になれば部活動でも早いうちから今のような形態で行っていたのかもしれませんが、コロナ禍を通して我が部においてもようやく転換期を迎えたようです。創部10周年に向け、新たな部活の在り方について模索して参ります。

<フォトギャラリー>



↑部員がそれぞれアプリ「将棋ウォーズ」で将棋を指している様子です。
後ろのスクリーンからはZoomで中継している部員の様子が見てとれます。



部員の対局をしている際の真剣な眼差しからは気迫が感じられます！



エグゼクティブ対談 創部 10 周年を迎える将棋部について語り合う

将棋部 顧問 田島 博之先生

× 将棋部 第 6 代部長 岩渕 拓真

～秀明大学将棋部 創部 10 周年に向けて～

★今回、将棋部の顧問である田島先生と、部長の岩渕君が互いに質問をし合い、
来年の創部 10 周年に向け、今後の将棋部について語り合いました。

☆議事要録☆

岩渕君：それでは対談を始めさせていただきます。まずはお忙しい中、田島先生にはご協力いただき本当にありがとうございます。

田島先生：どういたしまして。こちらこそよろしく申し上げます。

岩渕君：まず対談を行うにあたり、私から田島先生へいくつか質問をさせていただきます。

田島先生：はい。何なりと(笑)。

① 岩渕君→田島先生への質問 質問内容は太字で示す。

岩渕君：それでは 1 つ目の質問です。田島先生は将棋部の顧問の先生として長年ご尽力いただいておりますが、**田島先生がどうして将棋を好きになったのか、そして、将棋を始めるようになったきっかけを教えてください。**

田島先生：



私の場合、小学生の時に父親が将棋を教えてくれて、3～4つ下の弟と一緒に将棋を習っていました。それが将棋を始めたきっかけです。そして、次第に弟と将棋を指すようになり、負けたくないという気持ちからどんどん将棋が強くなっていき、ある時将棋大会に出ようという話になりまして、地域の将棋大会に小学生の部でエントリーしたのです。その時

に入賞したのが大きな原因でしょうか。その後に父親に将棋道場に連れて行ってもらいまして、それからは道場に定期的に通い詰めてとどんどん棋力を向上させていきました。道場で遊んだ友人たちには現在の屋敷九段、鈴木大介九段、野月浩貴八段、西尾明七段、伊奈祐介七段がおり、今も将棋界で大いに活躍をしています。だいたいルーツはこんな感じですね(笑)。

岩渕君：初めて出場した将棋大会が先生の将棋が好きになったきっかけであり、将棋への情熱を掻き立てたものでもあるのですね。

田島先生：そうですね。やはり、大会は自分の力を評価できる場であったからですね。

岩渕君：なるほど。先生の貴重なお話を聞くことができ大変うれしく思います。それでは、次の質問に移らせていただきます。**将棋部が来年度で創部 10 周年を迎えるわけでありますが、将棋部が創部された当時の様子について伺いたく思います。**

田島先生：10周年と言われると、もうそんなに経ったのか、というのが率直な気持ちなのですが(笑)、将棋をみんなで指し始めた時というのは、“将棋部”というのは全く考えていませんでした。ある経営系の学生の1人が、友人関係に行き詰っており、私の研究室に通うようになったのです。その時に、「先生、将棋指しましょう!!」と言い始めて将棋を指したのが始まりですね。そしたら、「僕もやりたい、僕もやりたい」という人が集まりだして、研究室で将棋を指していたのですが、ものすごく増えてしまい、多い時には10名を超える学生が来たものですから、生協前のラウンジで行うようになりました。当時の学生達の様子と言えることは、“純粋に将棋を楽しんでいた”のだと思います。

岩淵君：1人の学生から、人が集まりだしたところに大変感慨深さを感じました。

田島先生：そうですね。そして、その後は学生が主体的に活動し、他の大学と練習試合などをするようになり、徐々に現在の活動形態に近づいて、そのうちにレベルの強い学生、早い話が有段者ですね。そういう強い人達が集まりだして、部として認めてもらおうということで、正式な団体として承認されるようになったのです。

岩淵君：そのような経緯だったのですね。しかし有段者の方がいたというのは驚きました。

田島先生：その時その時の運というものもありますから。また強くなっていけばいいのです(笑)。

岩淵君：はい、頑張ります。それでは、3つ目の質問をさせていただきます。先ほど将棋部の10年間を振り返ってもらいましたが、その中で**田島先生**の感じる**将棋部の魅力**とは何ですか。



田島先生：そうですね。やはり、将棋部というと「文化系」というジャンルにあたると思うのですが、ある意味では格闘技でもあると思うのです。つまり、「スポーツ」ですね。そして、スポーツと言っても「知」のスポーツにあたるのだと考えます。だから秀明大学内において言えば、将棋部は文化系の「知」のスポーツの代表格なのです。もちろん、その理論で考えれば囲碁やチェスなども「知」のスポーツなのですが、秀明大

学にはありませんからね。そういった意味でも将棋部は秀明大学内において文化系の「知」のスポーツの代表格である点が魅力なのだと思います。厳しい話を言えば、将棋の団体戦で上位に入る大学というのは、東大、早稲田、慶應など、難関大学が名を連ねるわけです。そのため大学の将棋部の能力が、そのまま大学の能力として見られてしまうので、皆さんにはまだまだ頑張ってもらいたい、というのが私の本音です(笑)。

岩渕君：はい。肝に銘じて頑張ります。

田島先生：そうは言っても、“将棋は楽しむ”ことが一番大切です。まずはその気持ちを忘れないようにしてください(笑)。

岩渕君：はい。承知しました。それでは続いて最後になりますが、**来年度創部 10 周年を迎える将棋部**について田島先生よりお言葉を頂戴したいと思います。

田島先生：そうですね。まずはせっかく大学の将棋部に入ったからには、“初段”を目指してもらいたいですね。もちろん全員です。これは 10 周年というのは関係なく、歴代の先輩方に対しても言ってきたことです。初段を持っていれば、「将棋を指せる！」と胸を張って言うことができますし、学校教師学部の人達で言えば、「先生初段なんだって！！」というので将棋を教える機会を与えられます。また、場合によっては奨励会に入るくらいのレベルの児童生徒がいたとしても、その子のことを理解することができるのかなと思います。他の学部の人でも初段以上を持っていれば、将来会社の上司や同僚と将棋を指す、などという時に一目置かれる存在になるかもしれません。将棋部の人達も入部したからには、“初段”を目指して頑張ってください。

岩渕君：承知しました。先生の言葉を忘れずに今後も頑張ってまいります。

田島先生：はい、期待しています(笑)。以上で私への質問が終わったようなので、次は私から部長の岩渕君へいくつか質問をしたいと思うのですがよろしいですか。

岩渕君：はい。よろしく願いいたします。

② 田島先生→岩渕君への質問 質問内容は太字で示す。

田島先生：今年の 2 月より部長代行として部をまとめ、遠隔授業の間も職務を遂行して、ようやくこの 10 月より満を持して正式な部長になった岩渕君ですが、**岩渕君が将棋部に入部した理由とは何ですか？**

岩渕君：私が将棋部に入った理由というのは実に単純で、大学が寮生活ということもあり何

かしら団体に所属しようと思っていて、入ろうと考えていたサークルが、ちょっと自分には合わないかなと感じまして(笑)、それで将棋は元々父親の影響で少しやったことがあったので、将棋部に入りました。

田島先生：そういうことがあったのですね。これは、巡りあわせと言いますか、偶然のようで必然だったのかなと思いますよ。ある意味で岩渕君は将棋部に入るという”運命”だったのかもしれないですね。

岩渕君：多分そうなのでしょうね(笑)。

田島先生：いやいや。本当にそうだと思いますよ。それでは、続いての質問に移ります。**岩渕君**は現在、部活動を最前線で行っていると思うのですが、その中で感じる将棋部の魅力について教えてください。



岩渕君：そうですね。私が考える将棋部の魅力とは、“他の部・サークルにはないアットホームさ”ですかね。入部した時から、部員同士和気あいあいと将棋を指していて、とてもやりやすい環境であると感じており、部に入ったばかりの人でもすぐに馴染める環境ではないかと考えます。そのため、部員が互いに棋力を高め合うという環境も大切なのですが、私は「心の拠り所としての将棋部」というのも同じように推進してまいりたいと思います。私が将棋部に入った理由のように今の新入生でも、どの団体に入ろうか決めかねている人

が少なからずいると思います。そのような人たちにも“将棋部”があるんだ！というのを是非とも知っていただきたいですね。

田島先生：素晴らしいですね！いや、本当に大事なことだと思いますよ。キャンパスライフをあまり充実できていない人々にとって、心の拠り所があることは大変重要なのです。そしてその役割を自ら引き受けようとしているところはまさに“漢”だなと思いましたね。

岩渕君：いえいえ(笑)。そんなことはありません。

田島先生：そんなことあるんです(笑)。まあ、そんなこんなで現在将棋部を引っ張っている岩渕君ですが、**将棋部という組織をまとめるうえで心掛けていることは何ですか**。現在は部員が少ないですが、それでも複数の人をまとめるというのは簡単なことではありません。そのため、岩渕君自身が日頃から心がけていることを是非とも教えてほしいです。



岩渕君：私は部員の人と良い関係を築くために、1人1人の部員とコミュニケーションをとることを心掛けています。そのためどんなに些細なことであってもLINEのグループで逐次報告をし、情報を共有するなどした上で、“部員の人知らないことはあってはならない”ということを常に念頭に入れて行動しております。そして第1に心掛けていることは、“顧問の先生との連携”です。いかなる組

織であっても必ず上に立つ人と連携をとるのは当たり前であると私は考えておまして、将棋部の部長の職務を代行した当時から田島先生とはどんなに些細なことでも報・連・相を欠かさず行ってきました。

田島先生：確かにそうでしたね。これは組織の基本で、社会において、ビジネスの世界において基本となるところですから、“将棋部”の活動でそれができているというのは大変素晴らしいことだと思います。

岩渕君：いえいえ。これはある意味で、部長として組織をまとめる経験をさせてもらう中で、私にとっての“学修”になったと思いますね。

田島先生：なるほど。それでは、“学修”になったということで更に質問があるのですが、「**秀明 春季号**」で部活動紹介をし、その中で岩渕君は、「(部活動の)活動休止期間中は部長としての資質・能力を育むために努力をして参りたい。」と述べたわけですが、実際に活動休止期間が明けた今はどうですか、というのを聞きたいと思います。

岩渕君：そうですね。実際に部長としての資質・能力があるのかを判断するのは私ではなく、周りの部員であると考えております。しかし、私自身で判断するならば、活動休止期間中にも部を代表して職務を務める機会があり、部活動の紹介動画作成や、「秀明 春季号」の原稿作成などを行って参りました。その中で少なからず経験を積んできたと思うので、資質・能力をつける“努力”はできたのではないかと考えます。

田島先生：なるほど。そのような意識をもって常に活動しているというのは大事なことですね。それでは次の質問に移りますが、将棋部では例年では大学祭で“将棋道場”を開催し、いろいろな人を招いて将棋を指してきました。しかしながら、新型コロナウイルスの影響で開催がなくなってきた今回は、創部 10 周年を記念して冊子を刊行することになっていますが、岩渕君が部員の人と話し合った上で、冊子を刊行するに至った経緯というのを教えてください。



岩渕君：はい。当初はオンライン大学祭の企画というのが動画のみという話だったので、私をはじめ部員の人達も乗り気ではありませんでした。しかし、田島先生から「PDF 形式の文書で発表することができます」という話を聞いて、それならできるかもしれない！と思い構想を練り始めたというのがきっかけです。この冊子におけるコンセプトとしては、新入生に対しての活動内容の紹介などを知らせることが目的です。

そして第 1 のねらいは、将棋部が 10 周年を迎えるにあたり歴代の先輩方に対して、「今の将棋部の様子はこのような感じで、少ない人数ではありますが頑張っている姿を見せられたらなと思います、この冊子を刊行しようと思いました。」

田島先生：素晴らしいですね！ 10 年部が続いてきた中で、皆さんから見たら知らない先輩方がたくさんいらっしゃる訳です。そういった先輩方というのは今では教員として働いていらっしやったり、一般企業に就職されている関係から、例年大学祭には足を運ばない人が多くいるのですが、今年はオンラインで開催されることもあって、この冊子を見ることができるようなんです。そして、その先輩方が部員で作成した冊子に目を通したらきっと喜ぶと思うんですよ。「まだ将棋部続いているんだ！」とか、「今でも将棋を頑張っている後輩がいるんだ！」ってね。その点はすごく素敵だなと思いました。是非とも先輩方が目を通したときに「すごい！」と思わせるような冊子を作れるように頑張ってください。

岩渕君：ありがとうございます。精一杯部員の方と協力し、より良い冊子を作れるように頑張ります。

田島先生：頑張ってください。それではですね、最後に**岩渕部長**が今後将棋部をどのようにしていきたいか抱負を聞かせてください。



岩渕君：そうですね。今後は部員が少ない中、より多くの新入生を囲んで、活気ある将棋部を創って参りたいと思います。また、現在将棋部ではコロナ禍で活動に制限がかかる中、これまでのような活動ができるよう様々なことを試行錯誤しており、一貫した活動を行うことができておりません。そしてこれからもまだまだ活動は続くので、今後は部員の皆さんが安心して将棋に取り組むことができるよう、話

し合いを進めながら安定した活動を行っていけるように頑張りたいです。

田島先生：なるほど。そうなのですね。試行錯誤とは言いますが、Zoom を用いて遠隔の部員と中継をしたり、アプリを使って将棋を指すなど、IT を駆使しながら活動を行おうとしているところは本当に素晴らしいと思いますよ。こうして、今いる部員の皆さんで新たな活動様式を創りだそうとチャレンジしていることは、共に成長するきっかけとなるでしょうし、今後の人生において“財産”になると私は思います。その点を含め、私はこれからの皆さんに大きく期待をしています!!

岩渕君：ありがとうございます。今後も期待に応えられるように頑張ります。

～対談終了～

収録日 令和2年 10月21日(水)

部員による紹介シリーズ

★実は著名人のあの人も！！将棋が強かった・・・

今回、著名人で将棋が強い人3人を調べ紹介することにしました。また、その3人に共通するところを考察していきたいと思います。

① 原 辰徳 (現読売巨人軍 監督)

先日、故川上哲治氏の持つ巨人軍の歴代監督勝利数 1066 勝を塗り替え歴代 1 位とし、今シーズンもセ・リーグを独走する巨人軍を率いている原辰徳氏。

そんな原監督も無類の将棋好きとして知られ、アマチュア 2 段を持つヤクルト、巨人、阪神で活躍された広沢克己氏と互角に戦うことができるほどの棋力の持ち主だそうです。今シーズンも変幻自在の選手起用、柔軟な采配がズバズバ的中。その裏には、きっと将棋の、先を読む力などが生かされているのかもしれませんが・・・。



② 古田 敦也 (元ヤクルトスワローズ 監督)

ヤクルトスワローズで捕手として輝かしい成績を残し、現役生活の晩年は選手でありながら監督も務め、「代打オレ」が話題となるなど、長い間ファンに親しまれた古田氏。そんな古田氏も実はアマチュア将棋 3 段の免許状を持つほどの腕前。古田氏は「捕手として、目先の手だけでなく、その先の相手の手を考えなければチームは勝てない。」と豪語するなど、将棋が古田氏の現役時の活躍に関わっているようで、将棋で培われた幅広い視野で、現在も解説者として手腕を振るっています。



③ 桐谷 広人 (投資家)

「月曜から夜ふかし」で、株主優待で生活をしていることで話題になり、現在は投資家として全国各地で公演を行うなど、将棋とは何ら縁のなさそうな生活を送られている桐谷氏。そんな桐谷氏、実は2007年まではプロ棋士として数々の名戦を繰り広げ、7段を保有するほどの棋力の持ち主です。株は時期によっては価格が変動するなど、ある程度のリスクは付き物です。しかし、そんな中現在でも生計を立て、多くの株を保有することができるのは、将棋で培われた能力が生かされているからなのでしょう。



<考察>

今回この3人を調べて分かったことは、3人ともそれぞれの業界で活躍されているということです。原氏は長年監督としてチームを8度リーグ優勝に導いており、長丁場のレギュラーシーズンを様々な選手起用で乗り越え、チームを勝利に導いています。古田氏は、長年捕手として、チームを4度の優勝に導くなど、活躍されました。桐谷氏は、プロ棋士を引退後、投資家として現在でも生活をされ、資産を増やすことに成功しています。

将棋は相手の王将を取るために、様々な手を駆使して駆け引きを行う遊びです。その過程で、先々を読む力や周りの駒に気を配りながら攻めや守りを行うことで、周囲に気を配る力などが養われます。そのため、将棋と野球、そして投資、3者はいずれも全く関係ないように見えて、実は秘めたところで関わっているのです。何事においても先々を読む力や周囲に気を配ることは大切です。教育でも、教師は一人ひとりの児童生徒に平等に接するために、周囲に気を配ることが求められます。また、いつ何時児童生徒にハプニングが起こるかわからないため、常に先を読んで行動することも求められます。今回調べてみて、将棋があらゆる業界で活躍する秘訣になっていることを知り、教師になった際にもこれらの能力を身に付け、活躍することができるよう、これからは今よりも更に将棋を極めようと思いました。

< 引用画像 URL >

① 原辰徳

https://www.google.com/imgres?imgurl=https%3A%2F%2Fwww.nikkansports.com%2Fbaseball%2Fnews%2Fimg%2FaharaP2016011700354800-w1300_0.jpg&imgrefurl=https%3A%2F%2Fwww.nikkansports.com%2Fbaseball%2Fnews%2F1670641.html&tbnid=GjtcoL83nyxngM&vet=12ahUKEwia3bmnsVLSAhW_QfUHHbNyCkMQMyglegUIARDeAQ..i&docid=WxhelD6qp6GdhM&w=1194&h=1218&q=%E5%8E%9F%E8%B%E0%E5%BE%B3&ved=2ahUKEwia3bmnsVLSAhW_QfUHHbNyCkMQMyglegUIARDeAQ

② 古田敦也

<https://www.google.com/imgres?imgurl=https%3A%2F%2Fwww.sanspo.com%2Fbaseball%2Fimages%2F20171217%2Fnpb17121716180001-p1.jpg&imgrefurl=https%3A%2F%2Fwww.sanspo.com%2Fbaseball%2Fnews%2F20171217%2Fnpb17121716180001-n1.html&tbnid=kA7fIPcl7eFUXM&vet=10CA8QMyhvahcKEwjorLPWsvLSAhUAAAAAHQAAAAAQAg..i&docid=rbFt6lJ946pwjM&w=367&h=450&q=%E5%8F%A4%E7%94%B0%E6%95%A6%E4%B9%9F&ved=0CA8QMyhvahcKEwjorLPWsvLSAhUAAAAAHQAAAAAQAg>

③ 桐谷広人

https://www.google.com/imgres?imgurl=https%3A%2F%2Fi2.wp.com%2Fresumedia.jp%2Fwp-content%2Fuploads%2F2018%2F05%2F11645a6def2b82839488137cb0d53c24.jpg%3Ffit%3D400%252C300%26ssl%3D1&imgrefurl=https%3A%2F%2Fresumedia.jp%2F2488.html&tbnid=f8UUD_UH3ptBVM&vet=12ahUKEwjgtrjzsvLSAhUBB94KHareDtgQMygCegUIARCmAQ..i&docid=Cqfm8yeGxdUPBM&w=400&h=300&q=%E6%A1%90%E8%B0%B7%E5%BA%83%E4%BA%BA&ved=2ahUKEwjgtrjzsvLSAhUBB94KHareDtgQMygCegUIARCmAQ

～プロ棋士紹介コーナー～

将棋界にはたくさんの有名棋士が存在します。その中でも特に第一線で活躍している(引退後も公式大会等で解説等をしている棋士も可)棋士を4名紹介します！

No.1 羽生善治



・Profile

- 1970年9月27日 生まれ 埼玉県所沢市出身
- 1982年 6級で奨励会入会
- 1984年 初段に昇段
- 1985年12月18日 四段=プロデビュー
当時史上3人目の「中学生棋士」
- 1988年4月1日 順位戦 C 級昇級
- 1989年 初タイトルとして竜王位を獲得
- 1993年4月1日 順位戦 A 級昇級(当時 八段)
- 1996年2月14日 全7タイトル(竜王・名人・王位・王座・棋王・王将・棋聖)(当時のタイトル数は7)の独占を達成
- 2011年 名誉 NHK 杯に輝く(通算 10 回優勝) 史上初の記録

Episode

小学5年生の時、奨励会への入会を志し、将棋道場の師範代に相談しましたが、その師範代から、「小学生将棋名人戦で優勝すること」という厳しい条件を突きつけられました。しかし 6 年生の春に見事優勝し条件をクリアしました。この小学生将棋戦名人戦に出演していた大山康晴(当時十五世名人)は、優勝した羽生と谷川浩司(当時名人)を見て将来はこの 2 人が将棋界を引っ張っていくライバルになっていくであろうと述べていました。そして、彼の名が世に広まるようになったのは、五段時代に出場した第 38 回 NHK テレビ将棋トーナメントです。3 回戦で大山康晴、4 回戦で「ひふみん」の愛称で現在テレビ番組でも活躍している加藤一二三(当時九段)、準決勝で谷川浩司、決勝戦で中原誠(当時 NHK 杯選手権者) と当時現役の名人経験者全員に勝利を収めるといえるドラマのような勝ちあがり方で優勝しました。

Comments

将棋をあまりご存じではない方でもこの名前に聞き覚えがある方もいるのではないのでしょうか。居飛車、振飛車問わず指しこなせるのはもちろん、マイナー戦法でも何でも指しこなすオールラウンダー。15 歳でプロ棋士となり、次々と強力な棋士に勝利を収めていきました。そんな彼の最大の特徴は絶対に間違えない正確さと誰にも真似できない独創的かつ圧倒的な指し回しであると言えるでしょう。

No.2 加藤一二三



Profile

1940年1月1日 生まれ 福岡県嘉麻市出身

1951年9月 3級で関西奨励会入会

1952年 初段

1954年8月1日 14歳で四段=プロデビュー

史上初の「中学生棋士」

1955年4月1日 順位戦 C級 1組昇級

1957年4月1日 順位戦 B級 1組昇級

1958年4月1日 順位戦 A級昇級

1973年11月3日 九段

2017年6月20日

77歳で引退(フリークラス規定により、順位戦 C級 2組昇級からの降級により引退)

Episode

加藤元プロは、**将棋界において史上初の中学生棋士**です。彼は現役時代、対局中の勝負飯として、**鰻重を 40 年間食べ続けた**ということで有名です。彼曰く、「鰻を食続けると、夜中まで対局が続いたとしても、元気よく戦える」そうです。この鰻によるパワーも彼の強さの一つかもしれません。

Comments

「**神武以来の天才**」や「**1分将棋の神様**」という異名を持つ将棋界のレジェンドで、**居飛車党**で**棒銀**と**矢倉**を 1 番得意としていた棋士です。「**加藤棒銀**」と呼ばれるほど棒銀に長けていた棋士でした。その他にも「**矢倉▲3 七銀戦法**」や対中飛車に有力で袖飛車から急戦を狙う「**加藤流袖飛車**」などの強力な戦法を次々と発案し、将棋ファンから圧倒的な支持を獲得しました。3 年前に惜しまれつつ現役を引退されました。現在では、公式大会での大盤解説等で活躍されています。また、バラエティー番組などにも度々出演されており、「**ひふみん**」の愛称でお茶の間でも大人気に！

No.3 藤井聡太



Profile

- | | |
|------------|---|
| 2002年7月12日 | 生まれ |
| 2010年3月 | 東海研修会入会 |
| 2010年8月 | 小学校3年で第10回全国小学生倉敷王
将戦・低学年の部で優勝 |
| 2010年10月 | JT 将棋日本シリーズ東海大会の低学年の部で優勝 |
| 2012年1月 | 第9回小学館学年誌杯争奪全国小学生将棋大会に出場も
準決勝で惜しくも敗退 |
| 2012年6月 | 研修会 B1 組に昇級 |
| 2012年9月 | 小学校4年生の時に6級で奨励会に入会 |
| 2015年10月 | 三段に昇段 |
| 2016年10月 | 四段 = プロデビュー |
| 2018年2月 | 五段時代に順位戦 C 級 1 組に昇級 |
| 2020年 | 王位・棋聖・八段昇段 |

Episode

5歳であった2007年の夏、母方の祖父母から将棋の手ほどきを受けた後、瞬く間に将棋のルールをマスターした藤井八段。同年秋には将棋を指せる祖父では歯が立たないほどの実力をつけていたそうです。そして同年12月、瀬戸市の将棋教室に入会しますが、入会時に師範代から渡された約500ページある将棋の定石書を当時読み書きできないなか、符号を頼り、1年後には、完全に理解し、記憶したそうです。

また、藤井八段は詰将棋でもその才能を開花させていました。2011年に行われた第8回詰将棋解答選手権に8歳で初出場し、23人中13位という成績を残しています。5回目の出場となった2015年の第12回大会では12歳で史上初最年少優勝という輝かしい成績を残しました。そして見事最年少でプロ入りを果たした彼は、無敗で公式戦最多優勝記録である29連勝を記録しました。2019年の第16回までで5連覇を達成！優勝記録は歴代2位！

Comments

幼少期からこれだけ実力があると、幼いながら将棋に対する素質が垣間見えますね。そして着実に実力をつけていった藤井八段は、史上5人目の中学生棋士となりました。

No.4 谷川浩司



Profile

1962年4月6日生まれ 兵庫県須磨市出身

1973年5級で奨励会入会

1975年9月初段昇段

1976年12月四段=プロデビュー

1979年4月五段昇段(順位戦 C 級 1 組昇級)

1980年4月六段昇段(順位戦 B 級 2 組昇級)

1981年4月七段昇段(順位戦 B 級 1 組昇級)

1982年4月八段昇段(順位戦 A 級昇段)

1984年4月九段昇段(当時の九段昇段最年少記録)

Episode

史上2人目の中学生棋士となった谷川九段。誰も思いつかない手順で相手の玉を詰ませる**光速の寄せ**は多くの将棋ファンやプロ棋士を魅了し仰天させました。1983年に史上最年少名人になった頃、**中原誠十六世名人の後継者**と目され、**四冠王**となりました。しかし、続いてやってきた羽生善治との対戦は、のちに「**ゴールデンカード**」と呼ばれるようになります。

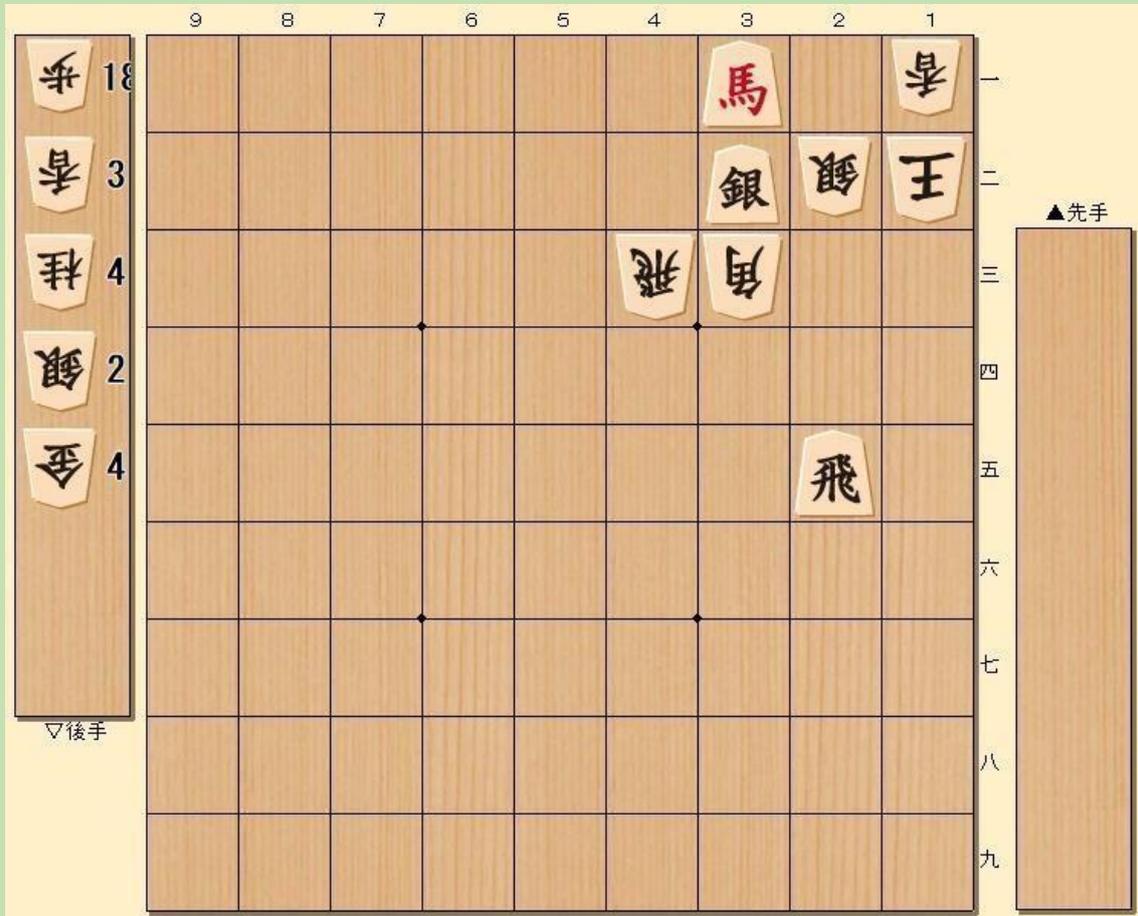
Comments

振飛車も指す場合もありますが、基本的には居飛車党の棋士です。30年前は**角換わり**を得意とし、他の棋士を驚かせました。**タイトル獲得合計27期、一般棋戦優勝22回(2018年3月現在)**という華々しい記録を保持しており、彼がいかに強かったかが伺えます。

～詰将棋コーナー～

棋力向上において欠かせないのが詰将棋！

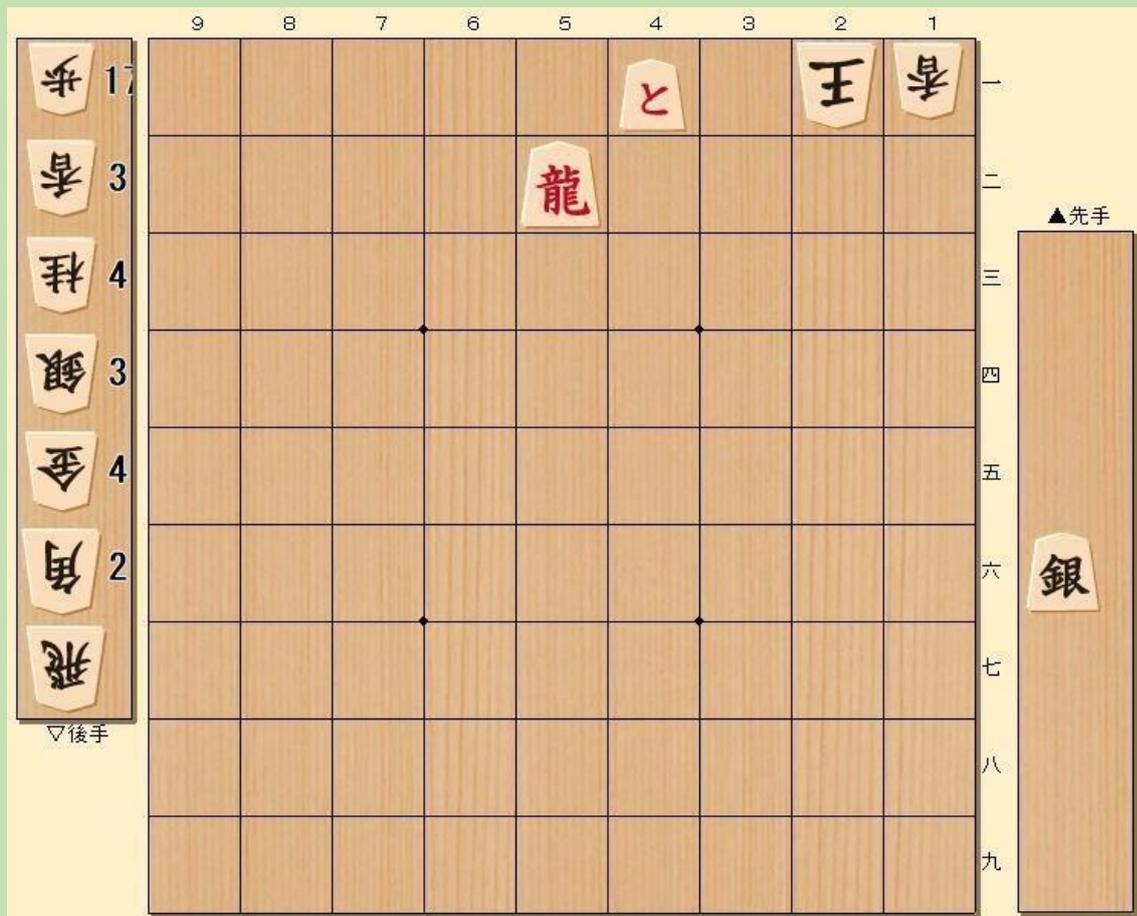
第 1 問



ヒント 銀を取らない

解答 ▲2 三飛成 △同銀 ▲2 一銀不成 までの 3 手詰め

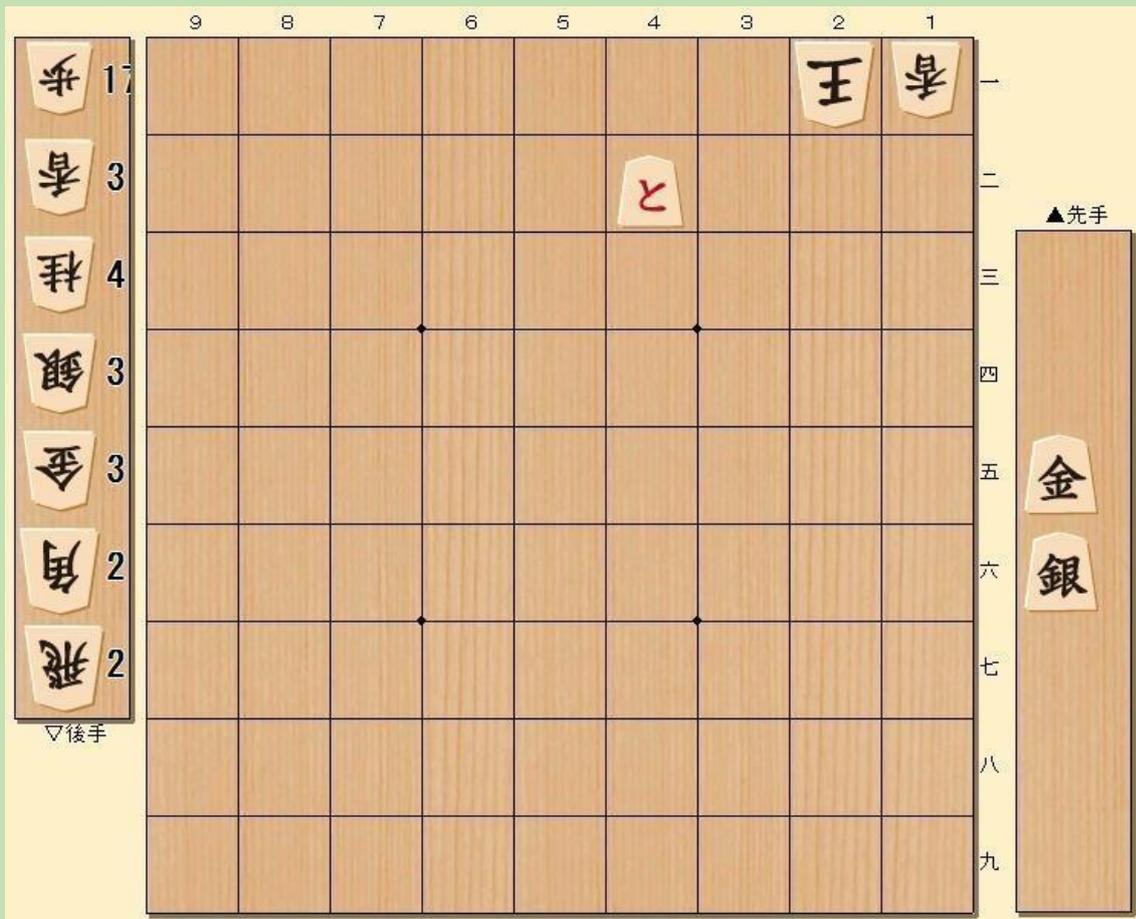
第2問



ヒント 玉を上部に逃さない

解答 ▲3 一と △同玉 ▲2 二銀 までの 3 手詰め

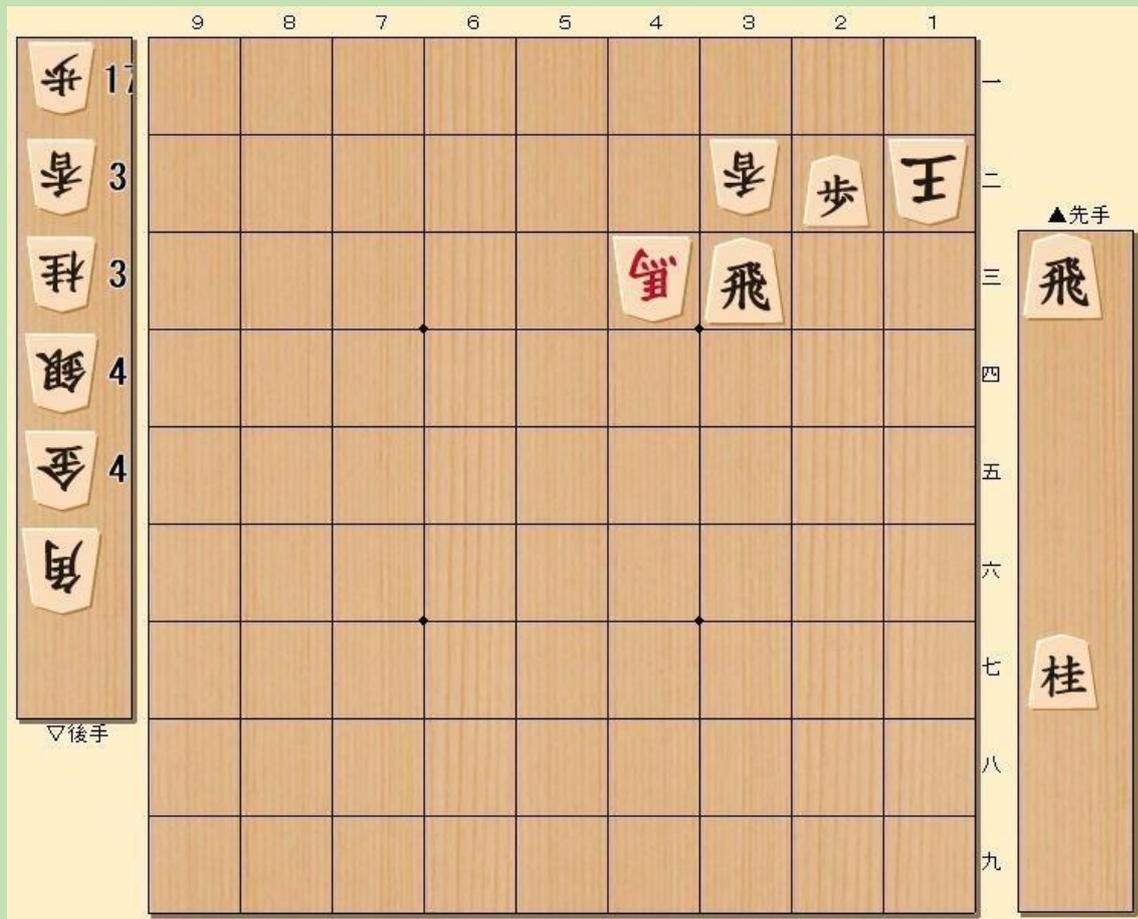
第3問



ヒント 持ち駒はどちらから先に使うか・・・

解答 ▲3 二銀打 △1 二玉 ▲2 三金 までの 3 手詰将棋

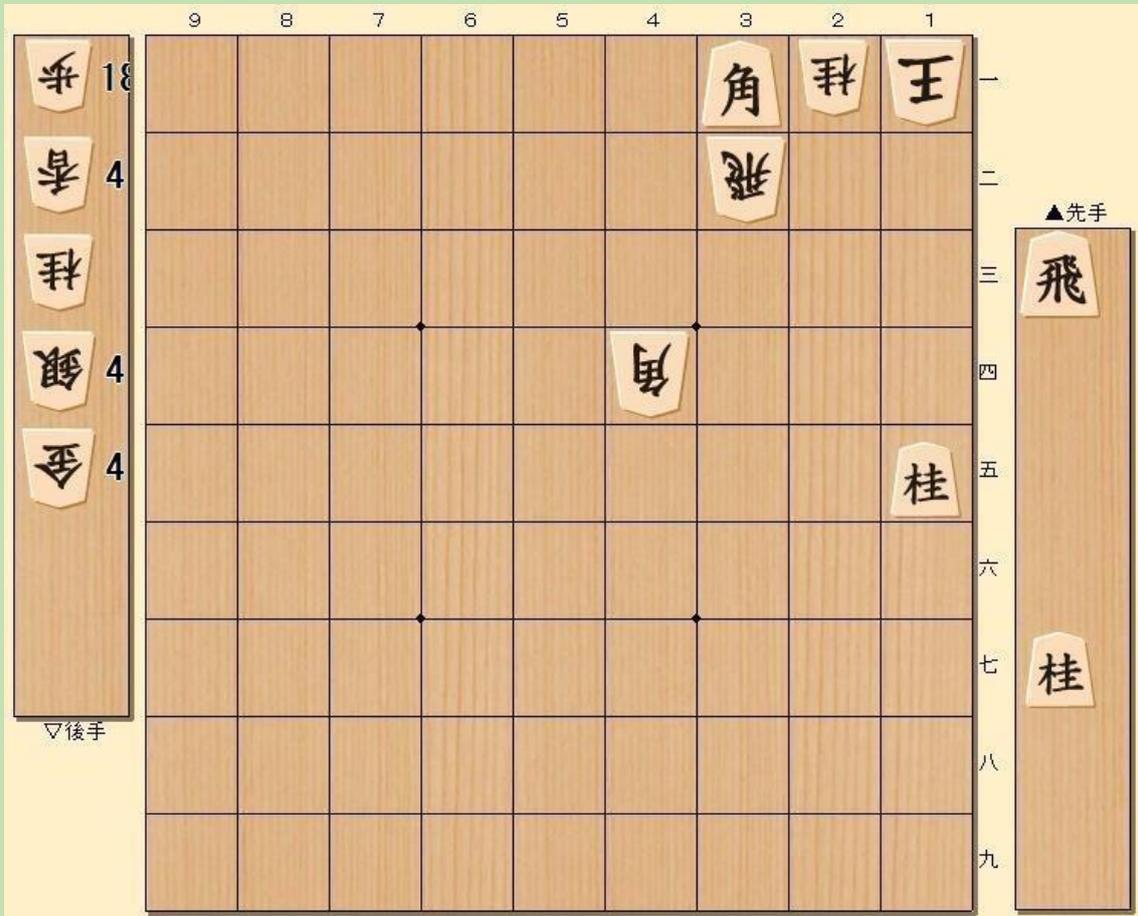
第4問



ヒント 初手から派手に

解答 ▲1 一飛 △同玉 ▲1 三飛成 △1 二合駒 ▲2 三桂 までの 5 手詰め

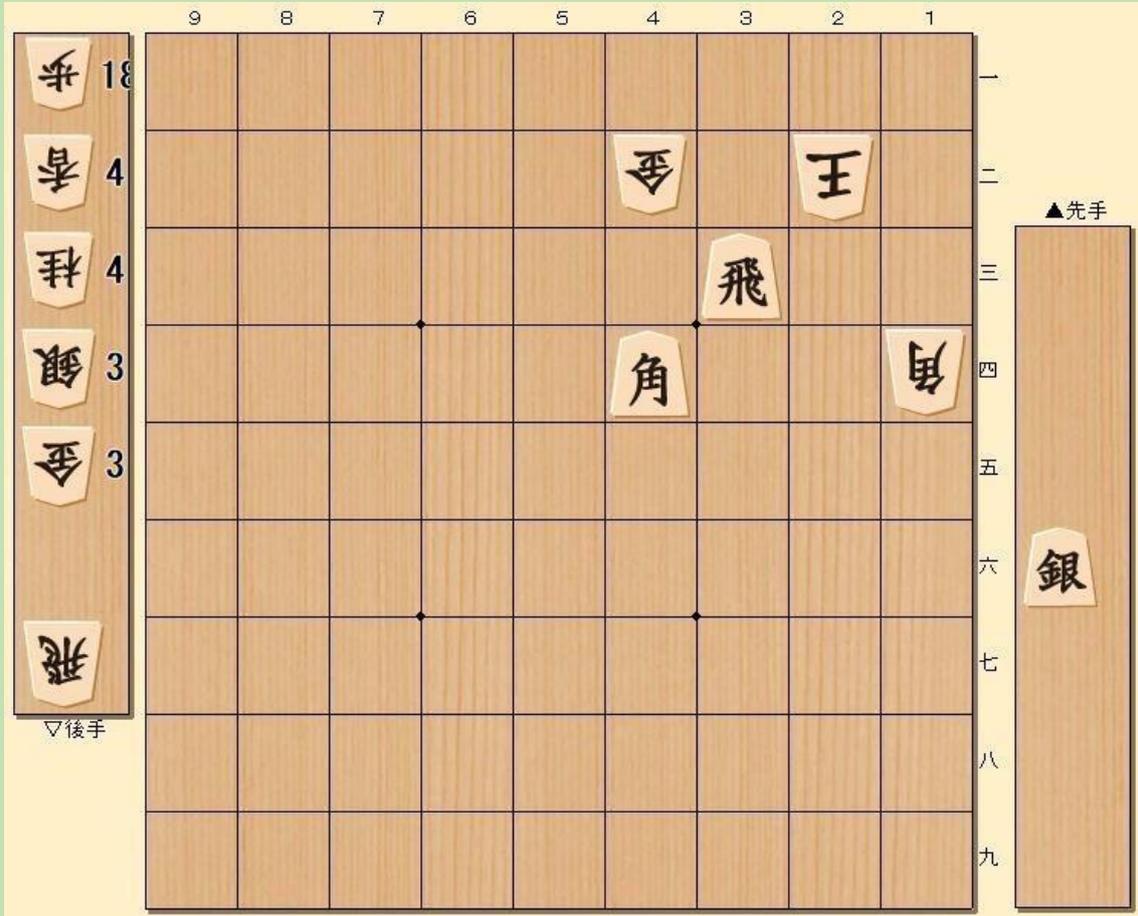
第5問



ヒント 初手で好守

解答 ▲1 二飛車 △同玉 ▲2 四桂 △1 一玉 ▲2 三桂不成 までの五手詰め

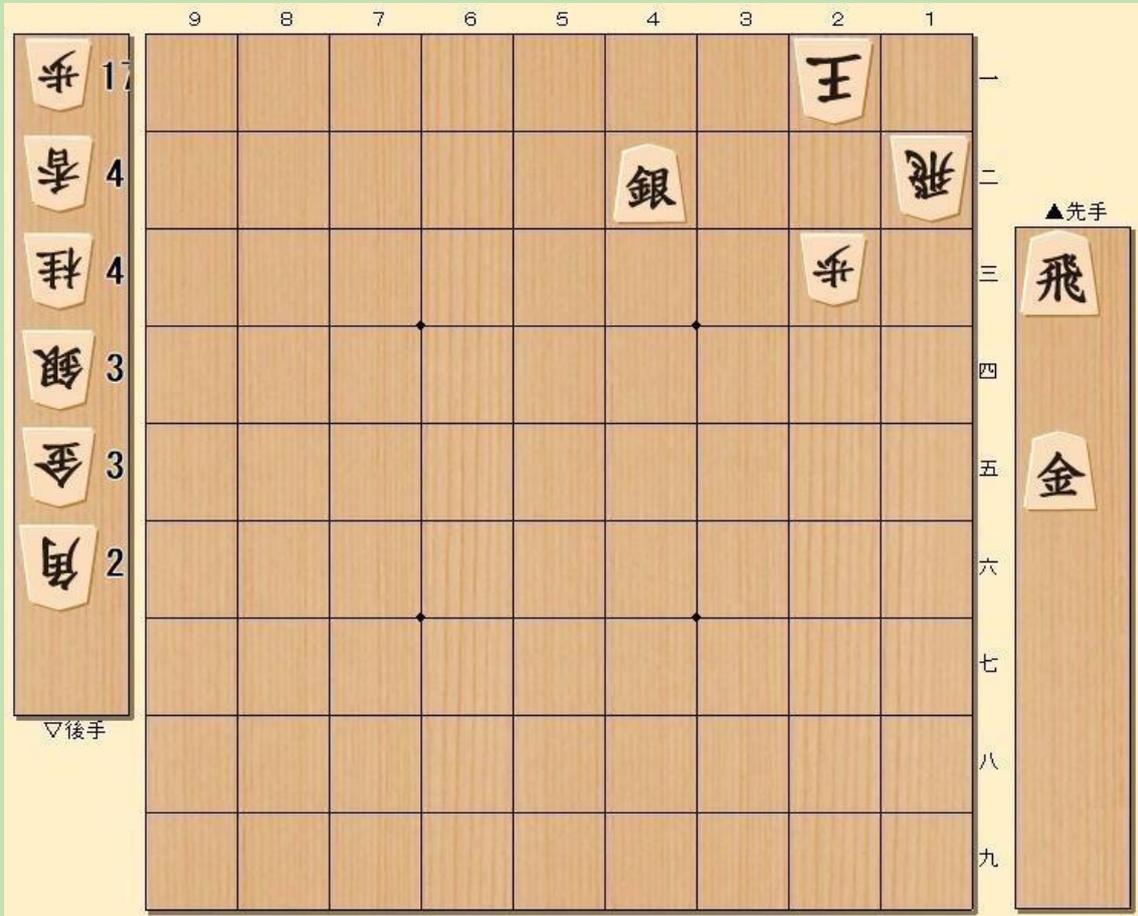
第6問



ヒント 両王手を狙えるが・・・

解答 ▲1 三銀 △2 一玉 ▲2 三飛成 △3 一玉 ▲2 一龍 △同玉 ▲2 二銀成または
2 二角成までの 7 手詰め

第7問



ヒント 初手から派手に

解答 ▲3 一飛 △2 二玉 ▲3 三飛成 △1 一玉 ▲2 一金 △同玉 ▲3 一龍までの7手詰め

<引用画像 URL>

① 羽生善治

[https://imgc.eximg.jp/i=https%253A%252F%252Fs.eximg.jp%252Fexnews%252Ffeed%252FNarinari%252FNarinari_20181221_52568_557d_1.jpg,zoom=600,quality=70,ty
pe=jpg](https://imgc.eximg.jp/i=https%253A%252F%252Fs.eximg.jp%252Fexnews%252Ffeed%252FNarinari%252FNarinari_20181221_52568_557d_1.jpg,zoom=600,quality=70,type=jpg)

② 加藤一二三

https://www.google.com/imgres?imgurl=https%3A%2F%2Ftimes.abema.tv%2Ffiles%2Ftopics%2F2597402_ext_col_03_1.jpg&imgrefurl=https%3A%2F%2Ftimes.abema.tv%2Fnews-article%2F2597402&tbnid=8mm1dUwWqPKi-M&vet=12ahUKEwiHi-fCt_LsAhXuxYsBHRcxA3cQMygKegUIARcKAQ..i&docid=sgZjoeYetDGCiM&w=2762&h=1921&q=%E5%8A%A0%E8%97%A4%E4%B8%80%E4%BA%8C%E4%B8%89%20%E4%BC%9A%E8%A6%8B&ved=2ahUKEwiHi-fCt_LsAhXuxYsBHRcxA3cQMygKegUIARcKAQ

③ 藤井聡太

https://www.google.com/imgres?imgurl=https%3A%2F%2Fstatic.chunichi.co.jp%2Fimage%2Farticle%2Fsize3%2F4%2Ff%2Fd%2F6%2F4fd6049534081e0fecc762e87e540242_1.jpg&imgrefurl=https%3A%2F%2Fwww.chunichi.co.jp%2Farticle%2F147615&tbnid=KiA5CbYITQ3pAM&vet=12ahUKEwiZqrDkt_LsAhUBDN4KHRs3DGoQMMygeegUIARDrAQ..i&docid=2Nd9IK4lvwa1TM&w=247&h=320&itg=1&q=%E8%97%A4%E4%BA%95%E8%81%A1%E5%A4%AA&ved=2ahUKEwiZqrDkt_LsAhUBDN4KHRs3DGoQMMygeegUIARDrAQ

④ 谷川浩司

https://www.google.com/imgres?imgurl=http%3A%2F%2Ftanigawa-kouji.mato.media%2Fassets%2Fimg%2Fpic%2F13997.jpg&imgrefurl=http%3A%2F%2Ftanigawakouji.mato.media%2Finstagram_search%3Fpage%3D2&tbnid=qHsLzE9_NiTb7M&vet=1OCAEQMyi2AmoXChMIsOTXxbry7AIVAAAAABOAAAAAEAQ..i&docid=AjbRAJEkhTPGIM&w=300&h=180&q=%E8%B0%B7%E5%B7%9D%E6%B5%A9%E5%8F%B8%E3%80%80%E5%85%AC%E5%BC%8F%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0%E3%83%9A%E3%83%BC%E3%82%B8&ved=OCAEQMyi2AmoXChMIsOTXxbry7AIVAAAAABOAAAAAEAQ

★将棋部 INFORMATION★

◆将棋部では、現在部員を**大募集中**です！！！！将棋が強くなり
たい方、ただ何となくやってみようという方、とりあえず何かしら
団体に入っておこうという方、誰でも**大歓迎**です！！**多くの方が**
入部され、**活気あふれる活動ができる**ことを私たちは楽しみにして
います。そこで**この冊子を読んでくださった皆様**に活動場所や、活
動日などをお知らせいたします。

<活動場所> 学校教師学部 A 棟 6310教室 (感染対策バッチ
リです！！！！)

<活動日> 月、水、金曜日 16:25~17:45迄

※ 現在、遠隔でも活動できる形態を採っているため、金曜日の活動
は教室で活動しない場合があります。そのため見学をする際は担当
まで一度メールを入れて頂けるとありがたく思います。

担当 岩渕 g519402@mailg.shumei-u.ac.jp

QRコードからのご連絡はこちらから⇒



最後までお読みいただきありがとうございました。

秀明大学将棋部 創部 10 周年に向けて

～Road to 10th Anniversary～

完

OB&OG の先輩方へ

現在も将棋 OB&OG の LINE グループがございます。お時間のある時に胸を貸して下さると嬉しく思います。

秀明大学将棋部

令和 2 年 11 月 発行